

ISSN 1910—2396

# 野鳥だより

—北海道—

第 105 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 8 年 9 月 21 日

ミュビシギ



1995. 9. 20 石狩新川河口 撮影者 佐藤 勇

〒004 札幌市豊平区清田7条3丁目16-2



## もくじ

野鳥と俳句・雑感	平井さち子	2
宮沢賢治・「ぶとしぎ」について	武沢 和義	4
小樽周辺の冬の海鳥探鳥	渡邊 智子	5
シマアオジの繁殖地守る		9
探鳥会報告		10
探鳥会案内		14
鳥民だより		14

## 野鳥と俳句・雑感

平井さち子(俳人)

昭和58年度の私の鳥獣観察ノート的一端をご紹介します。

2月5日 羽田(恭子)さん、萩(千賀子)さん、柳沢(千代子)さんと長都を一巡、ウトナイ湖でエリマキシギ3羽を撮る。沙流川では何とコミミ3羽に会う。太平洋のクロカモ、カイツブリ等も合わせ計31種に達した。



斑雪野をバックに牧欄上のコミミ

2月9日 早朝石狩の樽川通りへ車を走らせ、羽田・柳沢ご両人と三人でポプラ天辺のシロハヤブサを確認。昂奮ノ(前日道新夕刊に「ようこそシロハヤブサ」の見出しの下、珍鳥到来を告げている)

2月25日 林大作氏よりの連絡、札幌大学近くでキレングジャク約300の群れと。

3月2日 豊平区役所附近のナナカマドの実は、もの見事に空っぱ。夜のテラスにはテン2匹交替で来る。

3月15日 ふと気がついたらテラスの餌台にハチジョ

ウツグミ1。夜はテンとキツネの“トロット”。

4月26日 道新夕刊に曰く「セイタカシギ独り、道内での観察5回目。興奮する愛鳥家。美唄・宮島沼」

4月27日 早朝宮島沼へ。マガン5~6,000、セイタカシギ1、ハクガン1、コキアシシギ1、の他、書き切れず。

5月4日 家の裏山でツツドリの初声

5月20日 エゾハルゼミが鳴き出す。午後アカショウビン裏で鳴く。オオルリ、コルリ、ヤブサメ、キビタキ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、クロググミ、ウグイスなども。

5月23日 午後4時頃、窓のすぐそばの枝にアカショウビンが止まり、シャッキリした。土手の際に“トロット”が日向ぼっこ。

——— 以下略 ———

そのあと確かな記録がないので悔やまれるが、コノハズクとの出会いがあった。

ある宵、夫と共に手稲裾のどろ亀先生のヒュッテを訪問しての途次、陰々滅々たるトラツグミの声をバックにあの幻の声「佛・法・僧」の声。その澄み透った声は私を釘づけにし、震撼させた。半信半疑の俣、直ちに羽田さんへ連絡のち彼女によってめでたく“平和の滝のコノハズク”は認知され、現在は完全に市民権を得ている。今夏も何人かの耳に届いていることだろう。

膝がガクガクしたことのもう一つは、それより少し前のこと。江別大排水でのハイイロガンとの出会いの時、この場合も羽田さんは私の電話を受けるや否や、円山からタクシーで駆けつけて確認、いつもそうだがこの時も

双眼鏡を覗きつつ彼女の「あついた！いた！」の叫びは  
我が喜びを倍加させたものだった。

とにかく何という贅沢な日々であったろう……。

現在東京での我が日々と比べると、これぞまさしく

「夢」の日々であった。この頃の私の句帖は句よりも鳥  
合わせ用にメモすることの方が多かった。それでも何度  
かは句仲間と宮島沼やウトナイ湖へ一泊吟行を企画し、  
夜を徹して句界（苦海）に身を沈めたものだった。

一軒家に一路ひき込み帰雁の声  
雁の棹いくつ見送り軍手の手  
雪しろの河幅を翔け雁・雁・雁  
帰北どき白鳥月へたち上る  
めをと鴨湖広すぎて相寄りぬ  
氷上の夕陽すべらす鷺の肩  
なみだ目の湖の宵星狐兎  
白鳥の短き誰<sup>すいか</sup>何夜のなざさ  
夜泣き子の白鳥もゐて勇払野  
帰るさの身軽なこなし京女鴨

さち子（宮島沼）

（ウトナイ湖）

ところで、俳人は存外野鳥に対する知識不足で、カラス、スズメ、ツバメ等の他、水に浮いていれば一括して「鴨」で済ませたり、東京湾と上野不忍池を往来するカワウの棹や釣を高層ビルの上に仰いで「……雁帰る」と一句ものして悦に入っている。又、ジュウイチの名は知らずとも「慈悲心鳥」でOK。トラツグミは知っているも敢えて「鶴（ぬえ）」と詠みたくなり、

切株のためらひ傷や鶴鳴けり さち子

となる。こうした俳句界ではあるが、嘗て水原秋櫻子（1892～1981）は中西悟堂に蹤いて学び、「野鳥俳句」という一分野を拓いた。

啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々 秋櫻子

こんな良き先輩に恵まれてはいるが、今後世のバードウォッチャー達の増加に比例して野鳥俳句人口は如何であろうか。「シマアジ」「アジサシ」といえば、魚の刺身かと訊かれ、「サシバ」といえば「歯医者へ行くのか」と問われた経験を持つ身にとっては、いささか案じられ

る課題ではある。

〒156 東京都世田谷区桜3-9-12-101



めおとしぎ (8. 5. 25 西多摩)

## 宮沢賢治・「ほとしぎ」について

武 沢 和 義

今年には宮沢賢治の生誕百年の年に当たっており、それを記念した本も沢山出版されている。児童文学作家の国松俊英氏が日本野鳥の会の機関誌の「野鳥」に連載していた随筆が「宮沢賢治、鳥の世界」(小学館)という本となった。鳥の本としても非常に面白いものなので、是非お勧めしたいと思う。

私も、宮沢賢治の作品に登場する鳥について、以前から興味を持っていた。上に紹介した本と重複する部分もあるが、一人の詩人がある鳥について描いたイメージという観点から、私なりにまとめてみた。長編詩「小岩井農場」に、ほとしぎという鳥が登場する。この詩は曇り模様の5月のある日に、ここを訪れたときの1日を詠んだものである。今日は雨は降らないと思われたが、昼過ぎになって降り出したので、引き返そうとして、畑で働いていた労農夫に汽車の時間を尋ねる。このとき空で「ぶうぶうと鳴る鳥の羽音が聞こえる。(あの鳥何て云ふす 此処らで) / (ほとしぎ) / (ほとしぎで云うふのか) / (あん 曇るづどよぐ出はる) と、方言での会話があり、「遠くのそらではそのほとしぎどもが / 大きく口をあいてビール瓶のやうに鳴り / 灰色の咽喉の粘膜に風をあて / めざましく雨を飛んでいる」という描写が続く。ここに引用した部分だけで、オオジシギの姿を想像していただけるだろうか。ほとしぎは東北の方言、ほ



オオジシギ (山田 良造氏撮影)

としぎが共通語的な呼び名である。ほとしぎというのは、オオジシギやヤマシギのように山野で観察されるシギの総称であり、江戸時代に書かれた「和漢三才図絵」には保登鷗の字が当てられており、「雨を予知して舞い、風を予知して啼く」と説明されている。これは本州での話

ということになるが、昔の人にとっては、梅雨期を控えて、あるいは迎えて、ほとしぎは空模様の変化を知るための大切な手がかりであったらしい。賢治の詩からも、そのことがうかがいしれる。

賢治の自作題名メモに「ほとしぎ」という作品名が記されており、あの有名な「よだかの星」を指すと考えられている。というのは、この作品の清書原稿の表紙の題名が、「よだかの星」から「ほとしぎ」に変更されているためである。国松氏の本にも、いわば幻の作品として「ほとしぎ」がとりあげられている。宮沢賢治は、一つの作品を書くのに、何度も書き直しをする作家として知られており、今、私たちが読むことができるのも未だ推敲中だったという作品が多く、細部でつじつまの合わない場合が、時々でてくる。「よだかの星」の場合も、推敲の軌跡から、主人公にふさわしい鳥を選択するのに、かなりの模索をした様子がうかがえる。この作品では、二度の大空飛行が設定されている。まず、夜明けに飛び立ち、太陽に向かおうとするが、目がくらんで落下する。その後、夜中に目覚めて、再度飛び立ち、星巡りをする。それぞれ昼の鳥、夜の鳥、とされている。

太陽に向かって飛ぶ鳥、と云って真っ先に思い出すのはヒバリではないだろうか。ヒバリの鳴き声の聞きなしに、「利取る、利取る」とか「日一分、日一分」というのがある。これは太陽に金を貸したヒバリが、返金の催促をするために、空に舞い上がって鳴くという昔話に由来する。賢治の原稿でもヒバリがチラッと姿を見せる。原稿には、初め「ブルルル、ブルルル、パイパイ。ブルルル、ブルルル、パイパイ。パイパイ、ピピピピッ、ピーッ、ブーウッ」と鳴くよだかの声を書き込まれており、それが消されている。賢治流の表現では、これはヒバリの鳴き声なのである。「貝の火」という童話に「ブルルル、パイ、パイ、パイ、パイ、ブルルル、パイ、パイ、パイ、パイ」と鳴くヒバリが登場する。しかし、作品に登場するのは、間違いようもなくヨタカであり、その姿態の描写は的確である。そしてヨタカは「キシキシキシキシシッ」と鳴く。

夜空の星巡りが出来る鳥ということで、ヨタカが登場するのであるが、賢治のヨタカに対する評価はあまり良くない。北上川でカワセミを見かけたときに詠んだ「花鳥図譜 七月」という詩があり、カワセミのやくざな兄貴としてヨタカが出てくる。ある日、そのやくざなヨタカが自分のみにくさを悟って、新しい生き方を求めて大

空を駆けめぐる、というのが「よだかの星」という童話である。その意味では、主人公がヨタカというのは、必然的であるが、夜間に活発に動き、昼間にも大空を飛翔する姿が観察される鳥となれば、オオシギにはかなわないう感じである。ひょっとすると、賢治もそんな



ヨタカ (山田 良造氏撮影)

とを感じて、とりあえず表紙を「ほとしぎ」と書き換えたのではないかと思う。

なお話が少しずれるが、「花鳥図譜 七月」にも「よだかの星」にもハチドリ（蜂雀）がヨタカとカワセミの弟として出てくる。これらの鳥がなぜ兄弟なのかということについては国松氏の本にも詳しい説明がある。見た目には非常に異なる鳥のように見えるが、進化の系統という点では、近い仲間の鳥である。

宮沢賢治と鳥ということには限らないが、少しばかり古い時代の文学作品を読んだ時に、ふと感じる事が二つある。一つは私たちは、標準和名を当然のこととして使っているが、これが定まったのは意外と新しく、大正もかなり後期になってからである。この鳥と思っていたのが、実は全く違う鳥であったということに気付くことがある。今一つは、鳥類の分布がすっかり変わっているという事実である。勿論のこととして、文学作品には記録という意識はない。しかし、一つの記録として読んでみると、自然環境がものすごく変化しているということを感じる。

〒064 札幌市中央区南4条西26丁目

## 小樽周辺の冬の海鳥探鳥

渡 邊 智 子

小樽周辺の海鳥探鳥についてご報告致したいと思えます。

なにぶん探鳥歴2年生の記録ですので、怪しく、またそのため94年度、95年度の2年間の記録しか取っておりません。95年に観察してみて、どうも94年度の観察は怪しいなあ、と自分でも思う事がありました。

ですから、特に94年度の記録は皆様のお役に立てるような記録ではないと思いますが、ご容赦下さい。

私は札幌の周辺で、これだけ冬の海鳥がまとまって見れる所は、ここ小樽が一番だと思っています。

期間は大体、11月から6月上旬ごろまで。出現数のピークは海鳥の種類により多少違いますが、寒さの厳しい2月中旬～末と考えられても結構だと思っています。

シノリガモはもちろん、ウトウ、ウミガラス、ハシブトウミガラス、ケイマフリ、ウミスズメ、マダラウミスズメ、アビ、オオハム、ホオジロガモ、シノリガモ、スズガモ、クロガモ、ヒロードキンクロ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、コオリガモ、ウミアイサなど日本海側で記録される海鳥やオジロワシ、オオワシ、ハヤブサ、ハギマシコ、シロカモメ、ワシカモメ、ミツユビカモメ、ミズナギドリ類。大変運が良ければハイイロウミツバメ等も観察できると思います。

小樽での海鳥の一番の探鳥ポイントは、なんと言っても日和山灯台でしょう。日和山灯台はJR小樽駅からバスでも15分位の所にある小樽水族館（小樽市祝津）や観光名所鯨御殿近くに建っている灯台です。

その灯台を右手に、左手に水族館を見、トド岩と呼ばれる海に大きく立つ岩を正面に見るようにして立ちますと、ピーク（1月・2月特に2月中旬～下旬）には結構な数の海鳥達に出会えます。（トド岩には真冬、本当にトドが寝ている事もあります。それを漁師の方が鉄砲で撃つ場面にも遭遇し、ショックを受けたことがありました。）

このトド岩には時々ハヤブサ、オジロワシがてっぺんに止まっていたりしますが、大抵はカモメ類のお休み処となっています。ですからカモメ類の観察にも打ってつけです。

ところが、この場所は灯台が建つ様な所です。高さが結構あり、観察する海までの距離がありますので、スコopは高倍率のもので観察しないと（私はニコンフィールドスコープ78EDに38倍ワイドの接眼レンズを付けて観察しています。）7倍位の双眼鏡位では何もいない海に見えてしまいます。

また、冬の日本海です。寒さも厳しく、風も大変強く

黙って立ってられない程の日(そういう日の方がかえって内陸に避難してきた海鳥が近く、しかも多く見られたりしますが。)もありますし、車を降りてから観察場所までの道が真冬は全く無くなりますので、結構きつく感じる坂で、ひどい時は膝まである雪こぎも覚悟しなければなりません。

小樽での冬海鳥探鳥は防寒は大げさな位、特に足回りはしっかりなされたほうが、楽しく探鳥できると思います。

このように観察するには、なかなか大変な所もありますが、冬海鳥探鳥には小樽ではここ、日和山を1番にお薦め致します。(そんな苦勞のご褒美に時々アザラシやトドが海に漂いながら顔だけ出して寝ている様子もここからは観察できます。)

第2のポイントは同じく日和山ですが、今度は灯台を背にして対岸の暑寒別連峰を見る様に立ちます。ここでコオリガモがピーク(3月上旬)には大変沖にですが50羽以上見られたり、ハギマシコの群れに当たった事もありました。

次は豊井海水浴海岸です。

ここは駅から小樽水族館に行く途中のトンネルの裏にある所ですが、ここ日和山より低く、またトンネルとトンネルの間の湾のような所なので風も大して強くなく見やすいと思います。ただ、市民の雪捨場なのでダンパーが入り出して危険なとトンネルに囲まれているので見る範囲が狭くなります。それでもピーク(1月末~2月末)には結構近くでウトウ、ウミガラス類が見られ、ピーク時以外でもシノリガモ、ウミアイサ等は7倍位の双眼鏡でも観察できます。

ここでピロードキンクロ♀、ケイマフリなどを近くで観察出来た事もありました。トンネル沿いの崖でハギマシコの群れの採餌、上空にオジロワシ、オオワシを観察した事もあります。

次に北浜岸壁(手宮1丁目)です。

先程の豊井よりずっと小樽駅近くで、近くに手宮洞窟、交通記念館等がある工場地帯の裏の岸壁なのですが、ここは近くで鳥が確認出来ますし、日和山の次にお薦めかも知れません。

ピーク(2月中旬)にはホオジロガモを300羽以上確認したり、ウミアイサを200羽以上(2月下旬)ハジロカイツブリの群れも沖の岸壁近くに確認出来ると思います。

今年はカムリカイツブリも出現しました。ただ、これも市民の雪捨場になりますので、ダンパーにはくれぐれもご注意下さい。

また、ホオジロガモがここに付いていない場合は、地ビールで有名なピアホールの近くにある第1埠頭と第2埠頭の間にいたりします。この第1、第2埠頭は飼料倉庫があるためかこの時期ドバトが特に多く集まります。それを狙ってハヤブサが近くの鉄塔の上から突っ込んだりというドラマが展開されたりする事もあります。

小樽駅を通り越し札幌寄りの貯木場(小樽港マリナーや石原裕次郎記念館の少し札幌寄り)と呼ばれる場所には例年必ずズガモの群れ(今年のピーク時50羽以上)とコガモが見られています。(夏はイソシギが見られます。この横の築港ヤード跡で繁殖しているのです。先日、築港ヤード跡の開発計画が決まりましたが、なんとかならないものでしょうか?)

最後に小樽市内より余市に国道を15分程走りますと、文庫歌(ぶんがた、と読みます。)という所から見た海にはピーク(3月上旬)には100羽程にもなるクロガモの群れが見られます。ハヤブサ等も遠くの絶壁に止まっていたりします。

クロガモは以前は良く小樽で見られたそうですが、私は小樽ではここでしか見た事がありません。

しかし、なんとと言っても小樽の海鳥の圧巻はこれで2年連続して日和山灯台で確認されているウトウの群れの移動と言えるでしょう。

1年目(95年)は他の小樽支部の方に情報をいただいて移動を知ったのですが95年は2月26日、96年は2月27日にウトウが冬羽で、総数は万の単位だと思えますが、まるでカラスの<sup>おこ</sup>購入りのように小さな群れでも20羽程の単位で切れ目なく、一列になって余市方面に向かって飛びました。

95年等はその状態が約1週間(96年は2日間)続き、本当に圧巻で大感激しました。

是非!皆さんも今年のその時期をご注目下さい。今年も感動するシーンに出会えるかもしれません。

ウトウはわざわざ?天売島にまで行かなくとも小樽でしっかり冬羽(11月18日頃)・夏羽(2月14日頃)の両方が見られるのです。

実は表にあるようにウトウは天売島ではしっかり繁殖期に入っている6月末にも小樽や小樽周辺で見られているのです。

と言う事は、小樽近くでウトウが天売島のような数ではないにしても結構な相当数で集団営巣しているのでは?と考えられないでしょうか。

それともう一つ、去年見られた圧巻シーンは、やはり日和山で探鳥していたところ、オオワシが海に舞い降りケイマフリ(?眼がバンダ目でしたので)を捕食したところに出会った事です。

小樽周辺の月別出現状況（1994年～1996年）

多く観察される    
  3～10羽程度    
  稀  
 （調査・渡邊智子）

鳥名・月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	場所・95年度のピーク
1. アカエリカイツブリ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山灯台
2. ハジロカイツブリ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								北浜岸壁 2/26 11羽
3. ミミカイツブリ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								余市大浜中
4. カンムリカイツブリ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山・北浜・石狩川河口
5. ウミガラス	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 1/20～2/29・2/18 80羽以上
6. ハシブトウミガラス	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 1/20～2/29・2/27 8羽以上
7. ケイマフリ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山
8. ウミバト	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								余市大浜中 95.5/30稀・石狩河口 96.6/3稀
9. マダラウミスズメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 12/29
10. ウミスズメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 12/29 31以上・1/20～2/29
11. アビ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山・余市大浜中、モイレ海岸
12. オオハム	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
13. ウミウ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
14. ヒメウ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
15. マガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
16. コガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
17. ホオジロガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								北浜岸壁 2月中旬 300羽以上
18. スズガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								貯木場 50羽以上
19. シノリガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
20. コオリガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 3月中旬 50羽以上
21. クロガモ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								文庫歌 3/9 100以上
22. ビロードキンクロ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								余市大浜中 2/26 50以上
23. ウミアイサ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								北浜岸壁 3月中旬～下旬 100以上
24. ウトウ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 2/26大移動・7/8 1,000以上の群
25. ミズナギドリ類	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 5/28・7/8 1,000以上
26. ハイイロウミツバメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山・祝津漁港 12/10大変稀
27. オオセグロカモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
28. セグロカモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
29. ウミネコ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
30. ワシカモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
31. シロカモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
32. カモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
33. ユリカモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								北浜岸壁
34. ミツユビカモメ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 11/18・12月中
35. ハクセキレイ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
36. オジロワシ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
37. オオワシ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
38. ハヤブサ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								
39. ハギマシコ	<span style="display: inline-block; width: 100%; height: 5px; background-color: black;"></span>								日和山 3月上旬～下旬

実ははっきりその瞬間を見た訳ではないので、海に浮かぶ死体を拾ったのか、それとも本当に生きているものを捕食したかは正確に解らないのですが、もし死体ならカモメ達が先に群がっている気がします。

私達が見た時にはもうあのしっかりした足でケイマフリ(?)を掴みあげゆつたりと食餌場所に運んで行くところで当の獲物はもう息絶えたように首を下げぐったりしていました。

なかなかこれも迫力のあるシーンでした。

実は今回、一番お知らせしたい事をこれから書こうと思います。

祝津漁港での海鳥の現実です。

今年2月4日、3人程で日和山での何時もの海鳥探鳥を大体終え、近くの祝津漁港に寄ったところ、近くに住む漁師さんが大きめなりヤカーのようなもので浜に何かを山盛り運んで来て、ザッと海に開けたのです。カモメ達はそれに慣れたようにすぐ、群がり食べだしました。

ウミガラス、ハシブトウミガラスなど40~50羽、オオハム1羽、ケイマフリ1羽、ウミスズメ1羽

この数はその時無造作に捨てられた鳥達をショックで、ホーッとしながらもざっと数えた数です。

本当にショックでした。今日探鳥して見て来た総数よりも多い死体です。

たちまち彼らはカモメ達のご飯になったり、または残りのものは一様に頭を下、足を上にしてプカプカ海に漂い一面「海鳥の足の林」の様。

きっと祝津漁港の海底は今まで捨てられた何万という海鳥の死体の骨で埋め尽くされているのでしょう。

その時は放心状態になってしまったので、その漁師さんに1日1人当たり毎回、しかも1回の漁でこれだけの海鳥が犠牲になってしまうのか等、質問は出来ませんでした。こんなむごい死体などまとめてから捨てるものではないと思います。

漁師さん達だけを責めるつもりはありません。確かにウミガラス達は水中飛翔と呼ばれるほど巧みに海に潜って魚を捕食しますが、漁師さん達の網が彼らには見えならしく、その漁網に掛かって溺れる海鳥もいると私も本などで知っていました。

そして実際、私も何羽かの落鳥したものが捨てられているのを去年はこの浜では見ていた。が、現実には捨てる場面に遭遇したのは初めてでしたので、こんなおびただしい数が網に掛かって、捨てられるのは全く思っていませんでした。

私が去年まで見ていたのは多分、あらかたカモメ達に食べられた後だったので。漁師さん達も海鳥の群がる所は魚がいるというバロメーターになるので海鳥達のいるところに網を投げたり、海鳥達も網に掛かってい

る魚を狙って自ら魚網に飛び込む事もあるだろうとも想像出来ます。

しかし、ウミガラスといえばオロロン鳥。天売島では約20羽程しかいなくなってしまっていて希少鳥類として保護しているというのに、小樽では(きっと小樽港だけの話ではないですね。)この現実です。

何か私達に出来る事は本当にないでしょうか?

この状態を知って、網の改良に努力なさっている方もいると聞きましたが、是非!皆さんに現実を知って戴きたく思い、探鳥とは少し話題が離れますが書かせて戴きました。(この問題に興味を持たれた方はナイジェル・ブラザーズ1994.「捕まえるのは魚、海鳥ではありません…延縄漁の効率を高める為の指針」パンダニ出版という本も出ております。)

前の頁にまとめた記録は94年度・95年度の11月下旬~4月上旬の、大雪やどうしても風で立てない日は別ですがほぼ月、火、水曜の3日間は必ず午前10時から午後1時半ごろまで探鳥して見た記録です。

期間は94年11/22~96年6/2まで。大体延べ125日分の観察になりました。

12月の小樽合同探鳥会の参考にもなれば、と思います。

今年私は札幌に引越してしまいましたが、皆さん!是非、小樽に海鳥探鳥にお越し下さいませ。小樽で愛護会の方達をお待ち致しております。

#### クビワキンクロ♀を余市鮎場で 確認したときの記録

それは、95年11月19日野鳥の会小樽支部の4人で積丹来岸で探鳥した帰り、いつもの観察場所余市鮎場(余市町山田町、通称鮎見荘前)に寄った事から発見出来たのでした。

その子は結構近くにいて首を羽に突っ込み寝ていたのです。

寝ている顔を一瞬上げて見せた時、眼の回りの「白」からオシドリのエクリプスか?とも思いました。しかしオシドリなら頭の線がノベツとしていますのに、まるでクマガラの様な「モヒカン」頭をしています。

まして、オシドリなどが、この時期です。おかしいぞと思い直し、嘴の基部の白と体色よりスズガモの♀とも思いましたが、眼の色はスズガモの様に金色ではなく茶色です。

キンクロハジロにも似ていますが嘴の先がターコイス・ブルーで、大変目立ちました。

過眼線は図鑑(野鳥の会高野版・保護連630)にはハッキリ書かれておりますが、そこまではっきり!とは見えず、ぱっと見た目には眼の回りの白と頭のシルエット、



嘴の基部の白と先のターコイズ・ブルーが目立つ明るい茶色のスズガモに似た鳥です。

(過眼線は支部長の撮影時、彼女が大変近くを通った時には解りました。)

野鳥の会高野版には、喉のあたりもうっすら白く書いてありますが、それは全く有りません。

保護連630のクビワキンクロ♀にそっくりでした。

暗くなり家に帰りまして、副支部長さんにお電話しましたところ「もしそれが、クビワキンクロ♀なら新聞社物だ。」とおっしゃられるので、ビックリ!。鳥見歴2年生の知識のなさです。ホーム用ですが、ビデオカメラも持っていましたのに撮ってはおりません。

慌ててあちらこちらに電話して撮ってくれそうなカメラマンを捜しましたがなかなか見つかりませんでした。

日曜日に初認して、次の日、月曜日、大雨のなか観察しましたが、確認できません。

火曜日、初認したのと同じ午後3時10分頃確認できました。クビワキンクロ♀にやはり間違いなさそうです。

水曜日また雨の中見ましたが、今度は確認出来ません。

木曜日(勤劳感謝の日)朝6時にこちらを出発して渡邊俊夫支部長さん・梅木副支部長さん達と迷彩 TENT を張り、カメラを構え待って居ましたところ、やっと遠くに出てくれましたが、撮るには遠すぎます。

すると優しい小樽支部の方達です。近くで自分達は彼女を見られなくなるのに「回り込んで追い出して上げる。」とおっしゃってわざわざ遠い対岸にまで行って下さったのです。

すると、その作戦は見事に大成功!!

その方達に驚いて近くにきて、クビワキンクロ♀は写真に撮られてくれました。

結果として、日本初記録ではなかったのですが北海道で2度目、北海道初記録のクビワキンクロ♀の記録として、96年5月号の日本野鳥の会の会報「野鳥」に公式記録登録されました。

終認は96年4月23日でしたので約5ヶ月間もの間余市鮎場にいてくれた事になります。

ですから、今思うと慌てて写真を撮る事も無かったのかも知れませんが、いつも遠くにちらっとしか出て来てくれず、高倍率の38倍スコープでやっと確認出来るという様な神経質な鳥でしたので撮影に際しては大変苦勞しました。

余市は「野鳥だより第101号」で神田健男さんが鮎場近くでの、ヤマセミの繁殖について書いていらっしゃいますが、去年の8月22日からマガンが約1週間滞在したり、近くの山では北海道では珍しいゴイサギ17羽の越冬が確認され、今年はベニヒワ300羽、イスカ80羽以上、ナベツル(A2J1)、タゲリ、ヤツガシラなども観察

されています。



クビワキンクロ♀ 96. 3. 16 梅木賢俊氏撮影

夏には浜にシギ・チも結構入りますし、冬の海はビロードキンクロの50羽程の群れ(ピークは2月下旬)やマガモ300羽以上の海での越冬も見られたりとなかなか探鳥にも良い所です。

良い所と言えば積丹に11月頃から4月頃に行きますとオオハム、夏羽、冬羽のものやカツブリ類が近く、こちら小樽とは桁の違う単位の数で観察出来ると思います。〒065札幌市東区伏古8条4丁目4-12

リーベスト伏古202号

### シマアオジの繁殖地を守る 札幌北東部の石狩川河川敷「自然ゾーン」に

北海道開発局札幌河川事務所は8月23日までに、自然保護団体が野鳥「シマアオジ」の生息を確認した札幌市北東部の石狩川河川敷22ヘクタールを「自然ゾーン」として、現状のまま保全することを決めた。

自然保護団体は同鳥の道内での生息激減を指摘しており、同事務所では「繁殖に影響のある牧草地としての使用などを制限するとともに、ほかの管轄地域についても今後、調査を進める」としている。

シマアオジは道内の低地の草原に渡来する夏鳥で、スズメほどの大きさ。腹部が黄色いのが特徴だ。同事務所は「草原の地面に隠れるように営巣するため、牧草地にして刈り取ってしまうなどすると繁殖に影響する」としており、今夏、同河川敷の六ヶ所で繁殖を確認した自然保護団体も、善処を求める要望書を石狩川開発建設部に提出していた。

北海タイムス 平成8年8月24日より

この河川敷地域は北海道野鳥愛護会の草原の鳥たちの探鳥フィールドであり、シマアオジは昨年の探鳥会(7.2)でも観察されています。

編集追記



## 野幌森林公園 探鳥会

8.5.5  
相木大嗣

鳥に興味を持つようになって、今日で3年目に入りました。姿などである程度見分けが付くようになりましたが、鳴き声はちょっと自信がありません。

今年の森林公園は低温のせいか木の葉があまり出ていないので探しやすいのではと思っていましたが、鳥の方もなかなか動いてくれませんでした。しかし、私は聞くことができなかつたのですが、コマドリの鳴き声を聞いた人がいたそうで、うらやましく思いました。鳴き声もそうですが、やはり私のこの細い目で確認し、カメラに収めたかったです。(私の夢は自分の写した写真で自分専用の鳥図鑑を作ることです。)今回の探鳥会で一番盛り上がったのは、なんといっても松川池のあたりでした。オシドリのつがいに始まり、キンクロハジロ、マガモ、カルガモ、メジロ、センダイムシクイとあちちを見たりこちちを見たりと、うれしい悲鳴を上げてしまいました。でも残念なのが昨年は見ることができた、オオルリ、キビタキを見ることができなかつたことです。それはなんと言っても野幌森林公園と言え、クマガラです。木を削った穴は見ることができたのですが、せめて鳴き声だけでも聞きたかつたのですが本当に残念です。それでも鳥合わせで38種を確認したそうですが、その中で私が実際に見た鳥の数は23種、鳴き声だけは4種だけでした。まだまだ修行が足りないようです。がんばります。

〒063 札幌市西区発寒7条7丁目7-14  
コーポしらはぎ2号

〔記録された鳥〕カイツブリ、アオサギ、トビ、ハイタカ、ノスリ、オシドリ、コガモ、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、モズ、コマドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、ウツ、イカル、ニュウナイスズメ、カケス、ハシブトガラス 以上38種

〔参加者〕相木大嗣・孝子、浅井美智子、井上好、井上公雄、石沢よし子、稲葉孝徳、石田敏子、伊東祐二、今村三枝子、遠藤美智子、大友みゆき、大槻日出、大町欽子、大久保理雄、小川祐子、小淵修子、笈田一子、香川稔、久保田龍弘、小堀煌治、後藤義民、腰丸多美子、笹

谷敏郎・京子・ケイコ、榛葉貴博、霜村耕介、柴田久美子、鈴木克司、須田節、千田三英子、田中志司子、高栗勇、高橋孝次・洋、鶴巻道子、戸津高保・以知子、中正憲祐、波田初子、野坂英三、原橋進、日沼かつ子、松原寛直、皆澤清、山下孝之、山田良造、柳沢信雄・千代子、吉田政徳、渡部晶子 以上52名

〔担当幹事〕戸津高保、野坂英三

## 愛鳥週間初日の野幌森林公園

8.5.10 稲葉孝徳

「おはようございます」幹事さんのあいさつの後、野幌での注目の鳥や札幌周辺の鳥情報の紹介があり「出発します」の言葉で大沢口よりエゾユズリハコースを進む。

あいにくの雨降りですが、雨なりの楽しみがあるので傘をささずに歩こう。

入ってすぐにギビタキがあいさつがわりに姿をあらわす。右に進み、前方の通り道の地面で、さかんに細いミズを食べている鳥がいます。双眼鏡から目をはなす前にすぐ横で「アオジです」と声があがる。雨にもかかわらず、まずはいい出足です。目を下へ向けると、通路のわきの溝の流れにはエゾサンショウウオの卵があります。5月5日にもあったやつです。よく子供に見つからなかつたのだと感心しながら歩く、歩く。柳沢会長曰く、「注意は散まんでキョロキョロして歩くと、またちがつた発見ができるのだからね」とお話ししてくれた事を思い出しながら、それにしても鳥が見えないときはやけに寒い。雨のせいだと思いつつ、いつもならミズバショウも、とっくに終わっている時期なのに、今がちょうど見頃です。やはり雪が多かつた為にその雪解けの遅さと、近頃の平均気温が例年よりも低い日がつづいたために草花などは、2～3週間位開花が遅れているようだ。鳥はどうなのだろう。やはり行動に何らかの影響があるのだろうか少し気掛かりです。そんな事を思いながらさらに進む。時々イカルやアカゲラ、コゲラなどが姿を見せましたが、やはりいつもより鳥が少ないですね。柳沢会長は取材陣に囲まれ、愛鳥週間にちなんだおもしろい話題を提供しておられました。後半はケラ類に加えカラ類の出現が多くなりました。大沢園地と中央口との分岐点でみなさんと相談し、予定を変更して中央口へ向けて帰るコースをとります。その分岐点から10数M先の左側の人口林、トドマツの木にたぶん最近クマガラがあけたと思われる穴がある。採餌したのか、巣穴を作る練習をしたのか?かなり正確に四角く穴があいている。クマガラは几帳面な性格なのだろう、私も見習いたいものだ。

寒さのため少しピッチをあげて歩く。混交林との境で

口ばしが黄色い、少し大きめで見やすい鳥です。イカルはよくとおるきれいな声で鳴くのでよくわかります。さあ出口です。鳥合わせをする手もかじかんでしまい、思うように書けません。チェックリストで良かったと思います。帰りにコーヒーでも飲んで体をあたためて帰ろう。

愛護会のみなさんありがとうございます。

〒001 札幌市北区北20条西8丁目18

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オオジシギ、キジバト、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、ハシブトガラス 以上25種

〔参加者〕石井裕子、稲葉孝徳、佐藤勇、白澤昌彦、永島トキエ、村上陽子、柳澤信雄、山田良造、NHK・松木昭博ほか3名(取材班) 以上12名

〔担当幹事〕柳澤信雄、山田良造

## 千歳川早朝探鳥会に参加して

8.5.11～12 辻 正 一

一泊早朝探鳥会ということで、小学生の修学旅行の気分千歳駅に集合。支笏湖ユースホステルのマイクロバスから見た久しぶりの夕陽は、翌日のお天気を確信させてくれそうであった。美味しい夕食と楽しい懇談も早々に、3時半起床に不安を感じつつ就寝。

翌朝支笏湖畔を4時に出発、千歳川の蘭越から探鳥開始。車中から微かに見えていた朝焼けもすっかり雲に覆われて、防寒対策にもかかわらず早朝の寒さが身に沁みる。それでも鳥たちは梢で囀って、楽しませてくれる。クロツグミがキョロリ、キョロリと高らかに、ホオジロが鈴を振るような美しい声で歌っている。

30分程で孵化場手前の橋に到着、現地集合の方々とは合流し暫し橋の上から観察。私たちの到着前にはカワセミが頻繁に姿を見せてくれていたそうだが、この時は橋の上から川べりを飛んで藪の中に姿を消すのを垣間見るに留まった。残念がっていると、上流の葦の中で首を伸ばしているアオサギがいるとの事で見ていると、凄眼の幹事さんの「ミンクがいる」の声で川を渡る珍獣を眺める事が出来た。

橋を出発して孵化場近くの川べりの小中州ではキセキレイが、高い木の上にはオオルリが綺麗な姿を見せてくれた。孵化場から先は川沿いの林道に行く。途中行く手の道にビンズイがいるらしいが、土手を行ったり来たりでなかなか確認出来ない。必死になって見ていると、今度は「コサメビタキ」の声に川沿いの梢に目を転じる。

「出てきた」の声に再度道の上を見るが、「二兎を追うもの…」でどちらも満足には見る事が出来ない。今年は春が遅く花も遅れていたが、フクジュソウやエゾエンゴサクなども楽しみながら暫く行くと王子製紙第4発電所に到着。早々に幹事の方が発電所の方に挨拶に行かれると、ダムの上のゲートの鍵を開けてくださる。ダムの上にあがり眺めるとキンクロハジロがゆったりと泳いでいる。上空をイワツバメが乱舞する下で、ダム湖を眺めながらの朝食。雨は降らないが相変わらずの曇り空で、じっとしていると寒い。

8時、来た道を帰路につく。途中ベニマシコのつがいを見たりして孵化場脇の橋に到着すると、対岸をヤマセミが上流に向かって飛んでいくのを確認。一同やっと見られたヤマセミに満足しつつも、「赤い鳥も出して！」と幹事さんに難題を投げかける人もちらほら。そのまま孵化場の中を通過して、孵化場手前の橋の袂の広場で鳥合わせ。「寒いからキビタキはいなかったか…」とっていると、「先程、最後尾で見ました。」と言う方がいて夏鳥がほぼ出そろった楽しい探鳥会でした。幹事の皆さん二日間有り難うございました。

〒060 札幌市中央区北4西7 緑苑第2ビル712

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、オオジシギ、キジバト、ヤマセミ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、クマガラ、ヤマゲラ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、ニュウナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シメ 以上46種

〔参加者〕小川秀子、大沢真琴、大西裕子、大町欽子、笠原康民、日下部ミツ子、上口淳子、栗林宏三、佐藤ひろみ、佐藤正秀、沢部勝、白田啓二、清水朋子、志村二郎、神野幸子、高橋利道、辻正一、道場優、戸津高保・以知子、永島良郎・トキエ、西川喜久世、柳澤信雄・千代子、長谷川稔、久田伸一、山田甚一・れい子、山田としえ、山田良造 以上31名

〔担当幹事〕栗林宏三、道場優、佐藤ひろみ

## 植苗・ウトナイ探鳥会に参加して

8.6.9 山下 和子

愛護会に入会して2年になりますが、探鳥会には今まで一度も参加した事はありませんでした。

今年の春からバードカービングを始めた事もあり、今年はずいぶん探鳥会に参加したいと考えていたので、6月9日の植苗・ウトナイ探鳥会に参加させて頂きました。

植苗駅前9時10分集合、この日は快晴、絶好のバードウォッチング日和。目にしみる新緑の林の中を、ウグイス、センダイムシクイ、遠くにツツドリを聞きながら、ウトナイ湖に向けて歩き出しました。

小道の両側にはエゾノコリンゴ、足元にはベニバナイチヤクソウ、蕾のピンクがとてもかわいい。

低木のある草原に出ると、すすきの枯草のてっぺんで、にぎやかな声でさえずっているコヨシキリ。

「ノビタキが入っています。」「ノゴマが入っています。」と、あっちこちで声が聞かれる。双眼鏡の中には、次々草原の鳥たちが入って来ます。シマアオジの胸の黄色、ノゴマの喉の赤色、とっても美しい。(ア～感動！)

上空を気持ちよさそうに旋回したかと思ったら、独特の羽音をたてて急降下するオオジシギ、湖の方にはダイサギ、チュウサギが餌をさがしていたり、その奥の方にはコブハクチョウの親子の姿も見られ、右を見たり、左を見たり上を見たりなかなか忙しい。

探鳥会に参加して草原のいろいろな鳥たちに会えた事が、とってもうれしかった。それと共に原野にすむ動物たちが、安心してすめるように、この自然を私たち人間が大切に守っていかなければと強く感じました。

ウトナイ湖の岸辺に腰をおろし、初夏の爽やかな風にあられながら食べたおべんとう、心もお腹も満足、満足。とっても楽しい1日でした。

役員のみな様、どうも有りがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

〒061-11 札幌市東区南一条五丁目9番17号

〔記録された鳥〕ウミウ、アオサギ、トビ、チュウヒ、コブハクチョウ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、ツツドリ、コゲラ、ヒヨドリ、ノゴマ、ノビタキ、アカハラ、ウグイス、エゾセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、ニュウナイスズメ、スズメ、ダイサギ、チュウサギ 以上33種

〔参加者〕相木大嗣・孝子、安東マリコ、石橋和子、坂田孝弘、井上公雄、犬飼弘、大槻日出、大西裕子、香川稔、小泉三雄、小堀煌治、佐藤ひろみ、沢部勝、清水朋子、霜村耕介、高栗勇、武沢和義・佐知子、名原郁夫・澄江、中正憲祐・弘子、辻正一、戸津高保・以知子、永島良郎・トキ江、野口正男・キヨ、野坂英三、樋口孝城・陽子、久田伸一、森茂太・純子・林太郎、森田新一郎、柳沢千代子、山下和子、山田良造、吉田慶子 以上42名

## 平和の滝夜の探鳥会

8.6.22 森本 玲子

6月22日、探鳥会に参加しました。場所は平和の滝で、それも夜です。

実は私の探鳥歴は、6月初めに偶然出会った“愛”(注)の探鳥会に同行させていただいたのが始まりで1回きりなのです。その時に今回の予定を知ったのですが、考えてみると夜、鳥の声を聞いた記憶がありません。(注“愛”とは野鳥愛護会のことです。)

平和の滝は手稲山への登山ルートになっていて、何度となく通っている道でもあり、どんな所で、どんな鳥が鳴くのかと思うとちょっと気になります。そんなわけで、夜の会はベテランさんの集まりのような気もしましたが参加することにしました。

当日はいつものように登山をし、いよいよ夜になりました。集合時間です。1人2人と集まって来ました。虫よけの蚊取り線香をたく人、薬にネット、防寒も兼ねているのでしょうか、タオルや手袋など用意している人もいます。私もさっそく汗でぬれたタオルと軍手を使うことにしました。

歩き始めてまもなく“ヤブサメ”の声。でも私には何も聞こえません。キツネにつままれたような一瞬でしたがやはりいることが分かってドキドキしてしまいました。それがキッカケとなって、ベテランさんからいろいろな話を伺いながら歩を進めると、1km程行った所の堰堤でまた前方が賑やかです。かけ寄ってみると今度はマガモの親子でした。そこでかわいい姿をしばし見た後、終点の鉄塔へと足を運びますと、下まで来た時はまだほんのりと明かるく、ツバメ(私にはただ鳥としか)の飛んでいるのが見えます。みなさん、姿や大きさから細かく分析しているのには感心しました。

少し時間がたって暗さも増してくると鳴き声もはっきりしてきました。立ったままで声の方に耳をかたむける人、座ったままでジーッと耳をすます人とさまざまでしたが、声ができる度にリーダーの方が名前や特徴を教えてくださいまして、素人の私にも分かりやすかったです。また本をお持ちの方からもその都度見せて頂きました。

2時間ほどでしたが、自然の中でゆったりと楽しめる時間をもてほんとうに良かったと思っています。ありがとうございました。

〒063 札幌市西区24軒1条5丁目9-17

〔記録された鳥〕マガモ、ヤマシギ、アオバト、ツツドリ、コノハズク、ヨタカ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コルリ、マミジロ、トラツグミ、

アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、アオジ 以上19種

〔参加者〕相木大嗣・孝子、今泉秀吉、犬飼弘、佐々木綾子、佐藤ひろみ、清水朋子、田子元樹、戸津高保、中正憲佑、仲野百合子、西野衣栄、野坂英三、村田和幸・静穂、森本玲子、柳沢千代子、山田甚一・玲子 以上19名

〔担当幹事〕戸津高保、野坂英三

## 声はすれど姿は見えぬ(福移探鳥会)

8.7.7 大房修平

平成8年7月7日、私は初めて「探鳥の会」参加の記念すべき日となりました。弁当と水筒そして雨具は持参したものの肝心の双眼鏡はなく「まあ今日は天気も良いし久しぶりに新鮮な空気を胸一杯吸ってこよう」と思ったものです。出がけに妻から「これでもないよりましかも」とピンクと白の配色のオペラグラスを手渡されたので「いらぬ」とも言えずに、思ったよりも何だか重くなったバックに納めました。スキーの道具なら全く重さが苦にならないのに、と考えると私の探鳥に対する情熱程度が早くも疑わしく感じられました。そもそも“大房らしくない”この選択ですが自分ではそうは思っていないのです。

61歳を超えこれからの人生に何か豊かなものをプラスしようと模索していたのです。1年のうち半年以上をスキーと過ごし、夏は登山や旅行と言うのが11年このかたのパターンでした。平成元年SAJ(全日本スキー連盟)準指導員から指導員に合格、その任に没頭しておりました。したがって大自然とは密接にかかわってきたと言えるでしょう。思い起こせば野鳥の声にも、ずい分出合っています。一瞬、何という?、どんな姿の?鳥だろうかと非常に興味をもったりもしたものです。今年は例年がない大雪でスキーシーズンも大幅に延長となり、最後の雪を追って滑りましたがついにオフ。折しも、グッドタイミングでした同期入会の原橋氏を通じて、小堀さんに入会のご尽力をいただきましたことは実に幸運なことでした。7月7日福移の探鳥会は小堀さんの車で原橋氏と共に現地に。早速「探鳥開始」セットされたスコープを覗かせてもらったり、説明をいただいたのですが、「そこ、ここ」と言われ凝視するのですが……。

「声はすれど姿は見えぬ」でした。参加者の皆さんの見識ぶりに大いに尊敬の念を払って参りました。

カラス位は知っているつもりでしたが、説明によると「嘴太、嘴細」の2種類があるとの事でしたので、それならば比べて見なければどちらが太いか細いか判別出来

ないのでは?と質問し大笑いでした。ハシブト、ハシボソだったとは。この程度の私が後に楽しい思い出になるのではないかと、この日の夜にこれまた初心のパソコンに力を入れました。その後、小堀さん推薦の8倍の双眼鏡を購入、近隣でバードウォッチング。ガイドなしでは大変むづかしいと実感しております。

育てよう!野鳥の歌う豊かな自然のスローガンをまのあたりにして、開発や、スキー場の為に貴重な自然環境を改めて考えさせられ複雑な思いをします。美しい大自然こそが人類の宝であり守り育ててほしいと祈念しつつ、そして今後共よろしくご指導をお願い申し上げます。

〒062 札幌市豊平区平岸5条10丁目7-2-105

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、マガモ、イソシギ、カモメ、セグロカモメ、キジバト、カッコウ、カワセミ、アリスイ、アカゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上33種。

〔参加者〕板田孝弘、伊東裕二、犬飼弘、今村三枝子、大房修平、香川稔、栗林宏三、小堀煌治、後藤義民、佐藤ひろみ、沢部勝、清水朋子、高橋利道、中正憲佑・弘子、戸津高保・以知子、道場優、辻正一、羽田恭子、原橋進、柳澤信雄・千代子 以上23名

〔担当幹事〕戸津高保、道場優

## 鷓川探鳥会(記録)

8.5.19 くもり

〔記録された鳥〕ウミウ、アオサギ、トビ、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、ムナグロ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、オオジシギ、ハマシギ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ユリカモメ、アジサシ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、モズ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、チュウヒ 以上37種。

〔参加者〕志田博明、伊藤あゆ子、中正憲佑・弘子、清水朋子、後木建一・裕子、羽田恭子、三浦美重子、霜村耕介、辻正一、田中志司子、柳澤信雄・千代子、久田伸一、樋口孝城・陽子、福岡研也、永島良郎・トキ江、井上公雄、相木大嗣・孝子、栗林宏三、森田新一郎、戸津高保、大江則夫・美也子、道場優、佐藤ひろみ、佐々木泰夫、板田孝弘、榊川保・弘子、竹内強 以上35名。

〔担当幹事〕竹内強、中正憲佑

## 東米里探鳥会（記録）

8. 6. 16

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、マガモ、コウライキジ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、エゾセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上26種。

〔参加者〕相木大嗣・孝子、石橋修、犬飼弘、今泉秀吉、今村三枝子、大西裕子、清水朋子、高栗勇、高橋利道、田中志司、中正憲信、辻正一、戸津高保・以知子、富川徹・あいさ、樋口孝城、柳澤信雄・千代子、山田良造、余語正宏、渡邊智子 以上23名。

〔担当幹事〕富川徹、戸津高保



### 【ウトナイ湖畔】

平成8年11月10日（日）

短い夏を北方圏で過ごしたガン・カモ類が南を目指す途中ウトナイ湖で休息します。ハクチョウ・ヒシクイ等のほか常連のヨシガモ、ホオジロガモ、カワアイサ、ミコアイサ等やアメリカビドリも時々観察され、オオワシ、オジロワシも姿を見せ始めます。寒い時期ですので温かくして参加しましょう。集合＝9時40分ウトナイ湖畔側（旧ウトナイ・レイクホテル側駐車場）

交通＝道南バス（苫小牧行き）新千歳空港9：10発  
旧ウトナイ・レイクホテル前下車

### 【小樽港】平成8年12月8日（日）

祝津の灯台から築港貯木場まで港内各ポイントをバスで移動しながらアビ、ウミアイサ、コオリガモ、ホオジロガモ等を観察します。ウミスズメ、ウミガラス、ケイマフリ等に出会うと興奮し満足度の高い探鳥会になり、外すことの出来ない会です。

小樽港探鳥会は既報のとおり、貸切りバスを使用する都合で予約申し込み制となりました。参加ご希望の方は下記によりお申し込みください。

申し込み先・白澤宅 TEL (011) 563-5158  
午後6時～8時の間にお願いします。

同 期限・平成8年12月1日（日）

なお、当日自家用車で現地参加される会員もバスを利用してください。また、会員以外の参加ご希望

の方には上記事項の周知方よろしく願います。

探鳥会の開催要領は次のとおり。

集合＝午前10時 JR小樽駅出札出口付近

参加費＝1,000円（予定）

・名札と交換に担当幹事にお支払いください。

### 【藤の沢】平成9年1月19日（日）

藤野の住宅地から少し離れた所に今日のお宿があります。窓越しに見えるバード・テーブルにはカラ類・ゲラ類、カケス、コウライキジ等が餌を求めてやって来ます。珍しいと言うより身近に室内から鳥が見られるので、楽しい観察が出来ます。名物の豚汁をお替わりし、持ち寄りのご馳走で鳥談義にも花が咲きます。今年はどうな企画があるのか期待しています。

集合＝午前10時 白鳥園（南区藤野693～1）

交通＝定鉄バス（定山溪線）藤野3条2丁目下車  
藤野スキー場方向へ徒歩約20分

参加費＝500円（予定）

### 【野幌森林公園を歩きましょう】

平成8年11月3日（日）・平成8年12月1日（日）

集合＝午前9時 大沢口駐車場

交通＝夕鉄バス（文京台線）新さっぽろ駅ターミナル発  
大沢公園下車徒歩5分

☆いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行きます。  
☆昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。  
☆交通機関は変更等がありますので、利用される方は各自で調査をお願い致します。  
☆探鳥会の問い合わせは、011-851-6364柳沢宅まで

## 鳥民だより

### ◆愛護会の名入りカレンダーの販売について

平成9年（1997年）度版カレンダー100部、先着順で販売します。頒価1,000円。申し込み、問い合わせは、TEL011-851-6364柳澤信雄会長宅まで。

### ◆新年講演会、スライド映写会のお知らせ

日時 平成9年1月11日（土）13時30分～

場所 札幌女性センター

会費 500円（予定）

講師および演題は次号で詳報いたします。

### ○恒例のスライド映写会

発表ご希望の方はスライドのご用意を。総合調整は、山田良造氏。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 個人2,000円、家族3,000円（会計年度4月より）

郵便振替 02710-5-18287

〒060 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・六階 北海道自然保護協会気付

☎ (011) 251-5465